雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム

鬼子母神参道 江戸のにぎわい

はじめに

今回展示する雑司が谷遺跡は、豊島区No12遺跡として登録され、1992年から本格的な発掘調査が行なわれてきております。雑司が谷遺跡をはじめとする区内の遺跡の発掘調査は、NPO法人としま遺跡調査会と豊島区教育委員会が連携して実施してまいりました。としま遺跡調査会は、都市開発で消えゆく遺跡について充分な記録を残し、調査の成果を紹介していく中で、区民の皆さんが地域の歴史を学ぶためのお手伝いをすることが責務であると考えています。

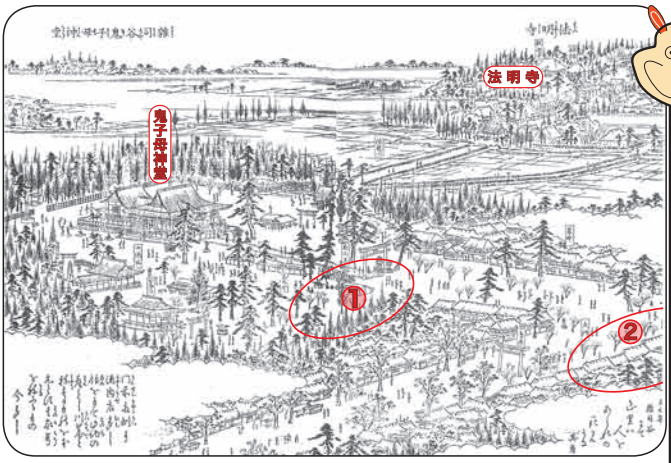
さて、江戸時代の雑司が谷は、鬼子母神堂に参詣する多くの人波で賑わっていました。参道沿いには料理屋・茶屋が建ち並び、江戸郊外でも有数の行楽地になっていました。その様子は歌川広重の『江戸高名会亭尽』や『江戸名所図会』などからも知ることができます。近年、鬼子母神参道脇で進められている発掘調査では江戸時代の料理屋・茶屋の様子を伝える遺構・遺物が発見されています。今回の展示はそうした成果から、かつての鬼子母神堂周辺の賑わいを味わってもらえたらと思います。

武州豊島郡雑司谷村絵図
明和９（1772 年）

現在の鬼子母神堂周辺
（東京都 2500 デジタルマップより作成）

ぼくはすすきみみずくのスズミンです。よろしくね！ぼくたちは江戸時代の雑司が谷生まれなんだよ。

角兵衛獅子のカクベイです。スズミンといっしょにみなさんを、江戸時代の雑司が谷に、ご案内します。



『江戸名所図会』雑司谷鬼子母神堂
今回紹介する発掘調査地点では、茶屋跡が①、料理屋跡が②の辺りになります。

鬼子母神堂は天正6(1578)年に鬼子母神像を勧請し、草堂を建てたのがはじまりといわれています。その後、鬼子母神の霊験譚(れいげんたん)が生まれ、元禄(げんろく)年間に江戸の人々が集まりはじめました。そうした参詣者のために参道沿いに、料理屋・茶屋が並ぶようになっていきます。

【茶屋跡の発掘調査】

鬼子母神境内手前の参道南側にみみずく公園があります。この公園をつくるにあたって発掘調査をおこないました。発掘調査の結果、参道沿いに掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)が建ち、その南側の裏手にあたる空間には植栽痕(しょくさいこん)やゴミ穴などがあったことがわかりました。

ゴミ穴からは筒茶碗、小杉茶碗、灰釉端反碗(かいゆうはぞりわん)などの湯のみ茶碗が多数出土しています。一つの世帯で使ったとするにはあまりにも数が多く、茶屋だったのではないかと考えられます。

出土した灰釉端反碗

掛花生

みみずく公園地区からは掛花生も出土しています。発掘調査の成果や絵図から茶屋の建物は簡素な構造だったと考えられますが、柱には花生が掛けられ、華のある空間演出もなされていた様子がうかがえます。

【料理屋跡の発掘調査】

次に紹介する雑司が谷3-19番地（以下、本地区）は、ケヤキ並木を抜けたすぐ右手に位置します。発掘調査によって、17世紀末から19世紀代にかけての、それぞれ時期の異なる地下室（ちかむろ）やゴミ穴、植栽痕が見つかりました（次頁図参照）。

階段付きの地下室

出土した肥前産の大皿

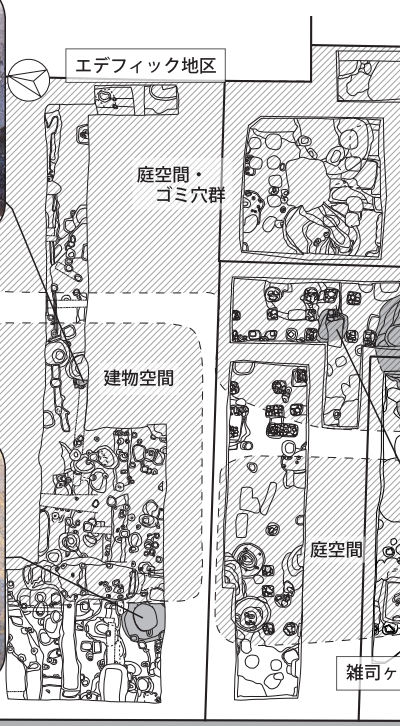
出土した遺物は飲食器や調理具、特に揃いの器や蓋付碗、大皿、小皿の量の多さが目を引きます。

遺物が出土した様子

さらには、おびただしい量の魚や鳥、卵、貝の食物残滓（しょくもつざんし）（食べかす）が出土しました。真鯛（まだい）やハタ、ホウボウといった高級魚、アワビやサザエと、およそ一般の町人や庶民が日常的に口にできる食材ではありません。こうした飲食器や調理具、食物残滓の出土から、単なる門前町家ではなく料理屋としてのミセが想起されます。

出土した真鯛
頭骨の一部

北隣りで行われた発掘調査（エディフィック地区、次項図参照）では、建物跡や竈、井戸など本地区とは異なる遺構の様相がみられます。庭空間である本地区に対して、その北側には、料理屋本体である建物が存在していたと推測されます。では、どのような建物が考えられるのでしょうか。



竈（上）は火を、井戸（下）からは水を、どちらも調理には欠かせない施設だね。

さすが料理屋さん！こんなに大きなゴミ穴が必要だったんだね！

いっぱい食べかすがでたよ。調理の痕がよくわかる魚の骨もね！

この料理屋は発見された柱跡の規模などから、雑司が谷の有名料亭であった茗荷屋（みょうがや）に似た建物構造（二階家）であったと想定されます。この料理屋は弦巻川を見下ろす台地上に建っており、雑司が谷の景色を眺めながら、趣向を凝らした料理をいただくひと時は格別だったことでしょう。

『江戸高名会亭尽』雑司ヶ谷之図
料亭茗荷屋が描かれています。

幕末以降の鬼子母神参詣は、一時期の賑わいに比べてかげりが見えはじめます。料理屋・茶屋もそのあおりを受けたと推測されます。大正年間頃にはほとんどの料理茶屋が廃業してしまいました。現在では、江戸時代から続く料理茶屋は存在しませんが、発見された遺構・遺物が往時の状況を今に伝えてくれるのです。

主　催：雑司が谷案内処
NPO法人としま遺跡調査会
資料提供：豊島区教育委員会

お問い合せは
NPO法人としま遺跡調査会まで
ＨＰ：http://www.toshima.iseki.org/
mail：tics389@a.toshima.ne.jp